

授業科目 NO. 414 在宅看護学方法論 I (看護援助論)

Home Care Nursing I (Nursing Care)

授業の形態：講義

単位数(時間数)：2単位(30時間)

開講年次・学期：2年次・後期

必修・選択の別：必修

キーワード：暮らしを支える日常生活援助技術、健康段階に応じた在宅での看護実践、発達段階に応じた在宅での看護実践、多職種協働、リスクマネジメント

1 金沢医科大学看護学部の到達目標 (全科目共通です)

- ① 豊かな人間性と倫理観
- ② 看護学の知識と技術、及び実践力
- ③ 地域志向を視野に入れた専門性の獲得
- ④ 生涯学習能力
- ⑤ 国際的視野の獲得

2 学習目標

1) 一般目標 (GIO)

地域・在宅で生活する療養者とその家族の特性に応じた暮らしを支える日常生活援助技術、健康段階に応じた看護実践の知識と技術を獲得する。

2) 行動目標 (SBO) ※カッコ内の数字は上記の金沢医科大学看護学部の到達目標との関連を示す。

- (1) 地域・在宅における看護実践の特性について列挙・記述できる。(②)
- (2) 暮らしを支える日常生活援助技術の特徴を列挙できる。(②)
- (3) 多様な発達段階(小児)や健康段階別(認知機能障害、神経難病、がん、終末期、精神障害)に応じた看護実践の特徴、多職種や関係機関との連携について記述できる。(②③)
- (4) 紙上事例をもとに、在宅療養者とその家族の特性や環境面などを考慮した看護実践を考察し、モデル人形や模擬患者にて一部実践することができる。(③)
- (5) 医療・看護を取りまく社会背景や動向を踏まえて、在宅療養者とその家族を対象とした入退院支援、服薬管理、リスクマネジメントの必要性とその実際について学修し、多様な場(訪問看護ステーション、医療機関の病棟・外来、在宅サービス提供機関等)で働く看護職に求められる役割や責任を考察できる。(①③)

3 学習内容

授業の内容については、授業計画に示す。

4 評 価

| 評価項目 | 評価割合 |
|--------|------|
| 定期試験成績 | 60% |
| 実習成績 | % |
| レポート | 40% |
| 授業態度 | % |
| 小テスト | % |
| その他 | % |
| 合計 | 100% |

(特記事項)

5 教育担当者

科目責任者：蘭 直美

教 授 前田 修子 (在宅看護学)
 准 教 授 蘭 直美 (在宅看護学)
 助 教 伊藤 真夕 (在宅看護学)
 助 教 清嶋 茜 (在宅看護学)

6 教育担当者の実務経験

科目責任者（蘭直美）は、医療機関・介護老人保健施設・訪問看護ステーション看護師として、医療ニーズの高い在宅療養者への豊富な看護実践、多職種連携、ならびに管理者として訪問看護ステーションの管理運営経験を有する。介護保険認定審査会委員経験を有する。

教育担当者（前田修子）は、医療機関看護師・市町村保健師・訪問看護ステーション看護師として、地域に暮らす人々の特性アセスメント、介護保険や医療保険その他社会資源の調整、地域づくり、介護予防、多職種連携、看護実践に取り組んだ経験を有する。介護保険認定審査会委員経験を有する。

教育担当者（伊藤真夕）は、医療機関・訪問看護ステーション看護師として、医療ニーズの高い在宅療養者への豊富な看護実践と多職種連携の経験を有する。

教育担当者（清嶋茜）は、医療機関・特別支援学校、訪問看護ステーションの看護師として、医療ニーズの高い在宅療養者への豊富な看護実践と多職種連携の経験を有する。

7 教 科 書

在宅看護学概論で使用した教科書

8 推 薦 参 考 書

授業中に、各学習内容に応じた書籍やホームページ・動画などを紹介します。

9 準備学習に必要な時間及び具体的な学修内容

授業 1 コマにつき、事前・事後学習として計 180 分程度必要です。

- 1) 電子シラバスに、事前・事後に必要なレポートが掲載してあります。
- 2) 各授業の資料に、教科書の該当ページを記載してあります。事前・事後学習に活用ください。
- 3) 各授業の資料に、該当授業内容に関連した行動目標を記載してあります。授業後に到達できるように、事後学習に活用ください。

10 課題（試験やレポート等）に関するフィードバック

- 1) レポート課題については、講義の中で取り上げ解説を行います。
- 2) 試験に関しては、試験後に解答例を提示し、フィードバックを行います。

11 履修上の注意事項

- 1) 配布資料はファイルし、毎回持参してください。
- 2) 提出期限の過ぎたレポートは原則受け取りません。電子シラバスによる提出の場合は、機器トラブルに備えて早めに提出してください。
- 3) 実習室では、大学指定のポロシャツ、ジャージズボン、ナースシューズを着用し、身だしなみは病院実習に準じてください。

12 オフィスアワー等

質問は随時可、ただし事前にメール連絡等することが望ましい。

前田：mshuko@kanazawa-med.ac.jp

蘭：ran@kanazawa-med.ac.jp

伊藤：m-itou@kanazawa-med.ac.jp

清嶋：akn@kanazawa-med.ac.jp

第2学年

在宅看護学方法論 I

| 学期 | 回数 | 開講日 | 時限 | 区分 | 講義・実習内容 | レポート/小テスト等 | 講座・科目群名 | 教員名 |
|----|----|-----------|----|-------|---|--|---------|---------------------|
| 後 | 1 | 12月15日(火) | 3 | 講義 | ガイドランス、訪問の基本 | 事前課題あり・グループワーク | 在宅看護学 | 蘭准教授,清嶋助教 |
| 後 | 2 | 12月15日(火) | 4 | 講義 | 在宅療養準備期(退院前)、在宅移行期の看護、病棟看護師と行う退院支援 | 事前課題あり | 在宅看護学 | 前田教授,清嶋助教 |
| 後 | 3 | 12月22日(火) | 3 | 講義・演習 | 清潔・衣生活援助技術/排せつ援助技術 | 清潔・衣生活援助技術冬休み課題演習レポート(10点) | 在宅看護学 | 前田教授,伊藤助教,清嶋助教,蘭准教授 |
| 後 | 4 | 12月22日(火) | 4 | 講義・演習 | 排せつ援助技術/清潔・衣生活援助技術 | 排せつ援助技術演習レポート(5点) | 在宅看護学 | 清嶋助教,蘭准教授,前田教授,伊藤助教 |
| 後 | 5 | 1月5日(火) | 3 | 講義 | 神経難病をもつ在宅療養者とその家族の看護 | | 在宅看護学 | 蘭准教授,清嶋助教 |
| 後 | 6 | 1月5日(火) | 4 | 講義 | 精神障害をもつ在宅療養者とその家族の看護 | | 在宅看護学 | 蘭准教授,清嶋助教 |
| 後 | 7 | 1月12日(火) | 3 | 講義 | 栄養・食事・嚥下に関する援助技術/活動・休息援助技術 | 栄養・食事・嚥下に関する演習レポート(5点) | 在宅看護学 | 蘭准教授,清嶋助教,伊藤助教,前田教授 |
| 後 | 8 | 1月12日(火) | 4 | 講義 | 活動・休息援助技術/栄養・食事・嚥下に関する援助技術 | 活動・休息援助技術に関する演習レポート(5点) | 在宅看護学 | 伊藤助教,前田教授,蘭准教授,清嶋助教 |
| 後 | 9 | 1月18日(月) | 4 | 講義 | がんをもつ在宅療養者とその家族の看護 | | 在宅看護学 | 伊藤助教,清嶋助教 |
| 後 | 10 | 1月19日(火) | 3 | 講義 | 認知機能障害がある在宅療養者とその家族の看護/終末期にある在宅療養者とその家族の看護 | | 在宅看護学 | 蘭准教授,清嶋助教,伊藤助教,前田教授 |
| 後 | 11 | 1月19日(火) | 4 | 講義 | 終末期にある在宅療養者とその家族の看護/認知機能障害がある在宅療養者とその家族の看護 | 演習レポート(終末期にある在宅療養者とその家族の看護)(5点) | 在宅看護学 | 伊藤助教,前田教授,蘭准教授,清嶋助教 |
| 後 | 12 | 1月26日(火) | 3 | 講義 | 在宅における服薬管理 | 演習レポート(5点) | 在宅看護学 | 前田教授,清嶋助教 |
| 後 | 13 | 1月26日(火) | 4 | 講義 | 在宅で療養する小児とその家族の看護 | | 在宅看護学 | 清嶋助教,蘭准教授 |
| 後 | 14 | 2月2日(火) | 3 | 講義・演習 | 地域・在宅におけるリスクマネジメント/在宅におけるリスクマネジメント, 事故事例の対応演習 | | 在宅看護学 | 蘭准教授,前田教授,伊藤助教,清嶋助教 |
| 後 | 15 | 2月2日(火) | 4 | 講義・演習 | 在宅におけるリスクマネジメント, 事故事例の対応演習/地域・在宅におけるリスクマネジメント | 演習レポート(在宅におけるリスクマネジメント, 事故事例の対応演習)(5点) | 在宅看護学 | 前田教授,伊藤助教,清嶋助教,蘭准教授 |
| 後 | | 2月9日(火) | 3 | 試験 | 定期試験 | | 在宅看護学 | 清嶋助教,蘭准教授 |